

主体性が顕著に強化されている朝鮮の経済

朝鮮社会科学者協会研究員 白明吉

最近、朝鮮では、金正日総書記の力強い指導により経済建設で大きな成果を上げ、民族経済の主体性が一段と強化されている。

金正日総書記は、次のように指摘した。

「我々は自力更生、頑強な革命精神を高く発揮し、民族経済の主体性、自立性をより強化していかねばなりません。」(『金正日選集』9巻、466ページ)

朝鮮の経済強国建設で注目すべきことは、主体性が徹底に保障された民族経済を建設していることである。主体性が徹底に保障された、現代的かつ自立的な民族経済を建設することが、朝鮮での経済強国建設の戦略的路線である。主体性が徹底に保障された経済を建設するということは、経済を自国の資源と技術に基づいて自国の環境に合わせて建設し発展させていくことを意味する。主体性が徹底に保障された経済は、国家のしっかりした物質的基礎となり、世界的な経済危機や帝国主義者たちの経済的圧力からも頑丈な経済を、安定的に発展させることのできる基礎となる。

朝鮮では、金日成主席が朝鮮労働党第6回大会で提示した人民経済の主体化、現代化、科学化の課題を貫徹するための闘争を通して、民族経済の主体性を高めてきた。しかし、1994年の金日成主席の逝去後、帝国主義の制裁と経済封鎖、社会主義市場の崩壊、繰り返される自然災害等の要因により、朝鮮は経済建設で年々耐えがたい苦労を経験した。このような時期に、金正日総書記は金日成主席の偉業を継承し、先軍政治で朝鮮を政治思想強国、軍事強国の地位に確実に押し上げた。また、経済強国建設を決意し、経済を活性化するための事業を賢明に導いた。従って、ここ10年間、朝鮮では、輝かしい経済建設の成果がみられ、民族経済の主体性がより強化されている。

本稿では、ここ10年間で朝鮮において民族経済の主体性が顕著に強化されたことを、4つの側面からまとめてみることにする。

朝鮮の民族経済の主体性が顕著に高まっているのは、第一に、経済が自ら保障した原料、燃料に、より徹底に依拠して発展することに表現されている。原料と燃料は生産活動において最も重要な要素であり、生産に要する原料、燃料を自国で開発、普及せず、他国に依存することは、結局、

経済のカギを他人に渡すことと同じである。今日、世界的に原料、燃料の危機が深刻な問題として提起され、少なからず各国が経済危機の渦に巻き込まれ、原料と燃料の争奪戦が頻繁に起きている現実には、原料、燃料の自給が経済を安定的に発展させることにつながることをよく表している。

朝鮮では、生産に必要な原料と燃料の自給率70%以上の保障を要求している。また、新しい経済部門を創設するにあたって、原料と燃料の国内保障の可能性を徹底的に計算し決定し、輸入原料と燃料に依拠している生産体系を自給できる生産体系の一つ一つ変えている。

主体鉄¹による鋼鉄生産体系を確立したことも、その代表的な事例の一つである。少し前まで、朝鮮ではコークスによる鉄生産体系が基本となっていた。従って、朝鮮では鉄生産用コークスを大量に輸入しなければならなかった。朝鮮の科学者と労働者は長年にわたり研究を進め、コークスを使わずに国内の豊富な無煙炭で鉄を生産する鉄生産体系を確立した。城津製鋼連合企業所、金策製鉄連合企業所、千里馬製鋼連合企業所を始めとする主な鋼鉄生産企業が、主体鉄生産体系を確立した。

化学肥料生産部門では、原油による肥料生産体系を無煙炭のガス化による肥料生産体系に完全に転換して、国内の無煙炭で肥料を生産している。文坪精錬所では、豊富に埋蔵されている国内の石炭を燃料として、非鉄金属を生産できる工程が新しく作られた。この他にも、マグネシアクリンカー生産の主体化実現等、色々な部門で輸入に依存した各種原料を国内資源で自給するための事業で、大きな成果を上げている。

朝鮮の民族経済の主体性が顕著に高まっているのは、第二に国内の原料と燃料、動力基地がしっかりしているからである。朝鮮はこの間、核融合に成功した。この過程において、朝鮮独自の熱反応装置が設計、製作され、核融合反応に関する基礎研究が終わり、熱核技術を完成することができる強力な科学技術力が整えられた。これは、国内の核エネルギーを発展させることのできる確実な道を開いたことになる。朝鮮では、国内の豊富な水力資源による電力生産能力を拡大・発展させ、動力基地を強化している。電力工業部門に国家的な力を集中させることで、大規模及び中

¹【訳者注】コークスを使わずに製鉄を行う技術を北朝鮮ではチュチュエ(主体)鉄生産と総称している。これには高炉を使わない直接還元製鉄法の他、電気炉によるスクラップのリサイクルなども含まれている。

小水力発電所建設に一大転換が訪れた。安辺青年発電所の完工に続いて、2007年には泰川4号青年発電所が竣工されることで、大寧江に階段式に建設された1号、2号、3号、5号発電所とともに、泰川地区が数十万kWの発電力を持った心強い大動力基地へと変化した。また、漁郎川1号発電所、三水発電所、寧越発電所、元山青年発電所等、大規模水力発電所が完工され、現在は数十万kW能力の熙川発電所が力強く促進されている。

採掘工業に対する国家的な投資を基盤に、自立的原料燃料基地をより強化している。富谷、三泉、礪磨炭鉱と南陽炭鉱8坑等が操業して、2.8直洞青年炭鉱と竜登炭鉱の抗内大型長距離コンベヤーベルト輸送ラインが建設され、石炭生産を増やすための土台がより強固に作られた。検徳鉱業連合企業所で大規模な鉱石運搬系統拡張工事が短期間に完工されたことを始めとして、殷栗鉱山、祥原石灰石鉱山等、数々の鉱山の拡張工事がうまく進められた。

これに伴い、朝鮮では自然開発事業に対する国家的投資を増やし、科学研究事業を強化して、国内の原料又は燃料基地をより拡大している。朝鮮の民族経済の主体性が顕著に高まっているのは、経済の構造が多面的かつ総合的に完備されていることからわかる。経済の構造が多面的・総合的に完備されることは、国の経済建設と国防建設、人民生活に必要な重工業製品、軽工業製品、農業生産物を基本的に国内で生産できる構造、原料生産から完成品に至るまで生産工程を自国内で解決できる経済構造を持つことを意味する。

経済構造が多面的・総合的に完備された経済を持ってこそ、経済建設と人民生活に必要な原料と燃料、動力、機械、設備、消費品などを安定して生産することができる。

朝鮮では、ここ10年間重工業の構造をより完備するため、多くの生産工程等を新しく現代的に作り変えた。千里馬製鋼連合企業所では、朝鮮の設計と技術、力量で、短期間で新しい超高電力電気炉を建て、黄海製鉄連合企業所では100トンの電気炉を完工した。また、金策製鉄連合企業所では、4号コークス炉建設と1号焼結炉改造工事を短期間に終えた。これにより、金属鉱業部門では経済建設に必要な鉄鋼材を十分に生産できる土台が作られた。

元山～金剛山間の路線が開通して電化工事が完工し、羅興鉄道工場、全鋼材圧延車輪工場が建設されるなど、経済の基盤となる鉄道運輸部門の物質技術的土台がより強化された。

特に、機械製作工業部門では、CNC工作機械を始めとするハイテク機械設備を大量に生産できる物質技術的土台が作られた。熙川機械総合工場、亀城工作機械工場、大安重機械連合企業所等、国の重要機械工場のカNC化が活発に促進され、人民経済の様々な部門に必要なCNC工作機械と設備を大量生産している。楽園機械連合企業所では、鋳物生産で最も大きな意義を持つ新浦郷鋳鉄職場を短期間に建設し、竜成機械連合企業所でも現代的な先軍鋳鉄工場を建設した。混合砂、造形、溶解、砂落としなど、全ての生産工程の情報化が実現されたこの工場では、労働力と電力消費を極限まで絞ることができ、質の良い鋳物を造り、生産環境も高い水準を保障することができた。

新世紀の要求に合わせて2.8ピナロン²連合企業所が改造拡張され、長年沈んでいた工場で主体ピナロンがあふれだす成果を達成し、南興青年科学連合企業所と興南肥料連合企業所等科学工業分野の生産工程が、最新科学技術に基づいて新しく備わった。

科学工業分野でのもう一つの成果は、近年、朝鮮東海³での製塩の歴史を作ったことである。朝鮮東海で塩を生産することは困難であるという既存観念を壊し、金野湾の海岸に大規模な塩生産基地の光明星製塩所を建設して塩を生産し始め、続いて元山製塩所、漁大津青年製塩所を建設することで、東海に数百町歩の塩田が広がることになった。

ここ数年、軽工業の構造もより完備された。平壤紡織工場、平壤小麦粉工場、新義州化粧品工場、清津基礎食品工場を始め、数多い軽工業も現代的に改造拡張されて、亀城養鶏場、アヒル牧場等、現代的な工場が各地に新しく建てられた。また、これに伴い、三日浦特産物工場をモデルとして、各道にも地方ならではの原料に基づく現代的な食料加工工場が新しく建てられ、現代化された。人民の食の問題、食糧問題の解決に国家的投資を集中し、農業構造がより改善され、農業生産の物質技術的土台が強化された。

最近、朝鮮は果物生産部門を急速に発展させ、大同江果樹総合農場、高山果樹農場、竜井果樹農場等近代的な大規模果樹総合農場が建設された。また、咸興市青年山羊牧場、松岩名記牛牧場を始め、大規模の牧場と平壤市江東郡九賓畜産専門協同農場をはじめとした畜産業協同農場を各地に建設し、肉類問題を解決できるしっかりとした土台を作った。

穀物生産でも、基本作物である米とトウモロコシ生産に力を入れながらも、ジャガイモと大豆農業にも力を入れている。これにより、大紅湍地区を始めとした両江道を現代

²【訳者注】ピナロンのこと。

³【訳者注】日本海のこと。

的なジャガイモ生産基地にして、全国のすべての農場で大豆農業の比重を拡大させようとしている。

農業生産を高めるために、朝鮮では、ここ10年間後回しにされてきた土地整理事業を進め、平安北道では約5万3,000町歩、黄海南道では約10万町歩、平安南道と平壤市では約9万4,400町歩の土地を整理した。その結果、畦の総延長が1万2,000kmに達する水田が半分近くの5,600kmほどになり、畦が約23万3,800kmの田畑が約6万5,500kmに転変され、1,760町歩の新しい土地ができた。

朝鮮の灌漑建設史に今までなかった大規模自然型灌漑体系が確立され、大きな力をみせている。総距離が1千数百里（1里は400メートル）に至る自然型水路の价川－台城湖水路と白馬－鉄山水路、ミル平野水路の工事を完工して、揚水動力を使わずに農業に必要な灌漑水問題を解決した。

民族経済の主体性が顕著に高まっているのは、近年、朝鮮の科学技術が急速に発展していることからわかる。

科学技術の発展は、経済の主体性を担保する根本となる条件である。21世紀情報化産業の時代、知識経済の時代に科学技術が遅れては経済的に支配されるのは必然のことだ。金正日総書記は2003年10月15日に発表した労作『党の科学技術重視路線を徹底的に貫徹することに対して』で「科学技術を発展させ、われわれの経済の主体性をより強化せねばなりません。」と指摘した。朝鮮では最先端突破のため、科学研究と技術改造事業に優先的に力を入れ、人民経済の全ての部門を21世紀に合った高度で、現代化、情報化され

た技術を装備することを求めている。

朝鮮では、宇宙技術、核技術開発に力を入れ、自身の力と技術で現代科学技術の総合体といえる人工衛星の開発の発射を一発で成功させ、また高いハイテク技術を要する地下核試験でも成功し、核融合でも成功を遂げた。これらは、日々発展している科学技術の様子がよくわかる事実である。朝鮮では、CNC技術の未来を握っている最先端CNC工作機械製造を問題なく生産しており、金属工業、科学工業、機械製作工業、食料加工工業をはじめとした全ての重工業及び軽工業分野の工場、企業所のCNC化を積極的に促進している。これに伴い、新材料技術、新エネルギー技術、情報技術、ナノ技術、生命工学といったハイテク科学技術分野と、核心技術分野の科学研究事業で大きな成果を遂げている。

朝鮮での科学技術発展の特徴は、第一に、誰の援助もない、徹底した自国の力と技術で科学技術強国の地位が確立していることで、第二に、世界的なハイテク科学技術の発展段階を順次学んでいくのではなく、大胆に進み飛躍的な発展を遂げていることである。

今日の朝鮮では、自立的民族経済建設路線を確実に歩み、自己の、自力更生の精神のもとで、民族経済の主体性をより高めていくことで、世界的な経済危機や制裁にもしっかりと社会主義経済強国を建設している。

[朝鮮語原稿をERINAにて翻訳]